

ミニコミ新聞 パソコン教室

《天恵の海》

号外 特別版 2015. 10
三陸の海を放射能から守る岩手の会
(略称) **三陸の海・岩手の会**
編集事務局 S. Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

誰でも作れるミニコミ新聞

私達の使っている機材

私達の会報『天恵の海』は、パソコンの「ワード」を使って作っています。パソコンの一応の知識があれば、誰でも「ミニコミ」を作れる時代です。
見よう見まねで作り始めた『天恵の海』ですが、十年間作り続けて来たら、少しは見られる紙面になってきました。全国の市民が多種多様なミニコミを作成し、生活者レベルでの情報発信が盛んになってゆくならば、民主的で健全な社会づくりに大きな力となるでしょう。私達の経験をお知らせします。



A4版なら手頃。どんなパソコンでもOK

会報は、三分くらいで読める手軽なものが重宝です。A4版くらいの大きさが適当でしょう。用紙も安く手に入りやすい。パソコンソフトもワードや一太郎ならば誰でも使えます。
まず、いつでも使えるように、トップ画面にA4版『編集枠』を作っておきます。私達は「天恵の海」の題字の入った六段のものを準備してい

ます。

パソコンの使い方は、チャレンジすることによって分かってきます。この「ワード版」を付録のCDに入れますので、分解して見て下さい。

パソコン以外の機材

デジカメ、



今は誰もがデジカメを持つ時代で特別のもではありません。私のもはボイスレコーダーもついていますので、会議や講演の録音も出来ます。写真をパソコンのフォルダーに保存し、いつでも使えるようにしておきます。ミニコミではそれほど鮮明さが要求されません。加工し

やすいように、「画素」を粗くし軽くした方が作業が楽です。

スキャナ、



写真や新聞をコピーしたり文字を読み取ったり、実に役に立ちます。必要な資料などが手に入ったら取り込んで、パソコンのフォ

ルダーに保存しておこう。

プリンター。



これも大抵の家庭にあるものです。私は白黒レーザープリンターを使っています。インクジェットより安いようです。

紙面編集の要領

- ①記事は『5W1H』を念頭に簡明に書くことがよい。いつ(WHEN)どこで(WHERE)誰が(WHO)何を(WHAT)どうして(WHY)どのように(HOW)したのかを基本に書いて行く。「何々によれば」などその事実を知った経緯も大切である。
- ②見出しは 短く大きな字にしよう。最初はどうして長すぎ、しかも活字が小さくなり訴える力が弱くなる。記事の内容を連想させるような見出しがよい。「新聞は、見出しで読ませる」と言う人もいる。
- ③「小見出し」は記事を全部読まなくても、内容がほぼ分かるので重要。小見出しを付けることで、書き手も文章をまとめやすい。
- ④紙面のバランスが大切である。写真と大文字の見出しが紙面全体で偏り過ぎてはいけない。「腹切り」とか「泣き別れ」というのは「下手な割り付け」とされる。
- ⑤何よりも記事の内容を正確にするために念を入れて、様々なルートで当事者や専門家から確かめる。プライバシーや著作権、肖像権への配慮も大切である。

ミニコミ天恵の海の実践



学習会を 続けていきます

私達の「三陸の海・岩手の会」は毎月二回くらい夜の例会（学習会）を続けて来ました。結成以来、「再処理を止めて放射能から身を守ろう」とみんなで本を読んだり、ニュースなどで知った情報を持ち寄って学習会を続けてきて、この九月末で二四一回目になりました。出席者は仕事を終えてから駆け付けるので入れ替わり立ち替わり、いつも十人くら

いです。

学習会で得た知識を みんなのものに

この『ミニコミ・天恵の海』はその学習会を基礎にして編集し発行しています。編集長は私、高校で社会科学を担当した退職者で、原発など理系は全くの素人です。ただ在職中、学校新聞部の顧問をしたことがあるので、新聞づくりはちょっと経験があります。運動の広がりや学習の定着を求めて、引き受けたわけです。

実は私は、学習会に出席しても理系の勉強はなかなか身につかず、自分なりに理解しようと努力しようとしたことも動機です。未知の分野でも自分なりのやり方で少しでも正確に理解し、誰にでも分かるように記事にするのがミニコミづくりです。十年やってみてだいぶ知識がついてきました。

「天恵の海」 編集手順

当初は会報なのだからきちんと編集会議を開き、編集方針に従って紙面を作り、手続きを踏んで発行しなければならぬと考えました。しかし、現実には、仕事の合間の学習会でそんな悠長な時間はありません。

①編集長は「主筆」

これまで結局、実際に記事を書いているのは、私（編集長）が八割くらいです。学習会では世話人の永田さんを中心にいろいろな人が多くの情報を集め、分析し、分かりやすく報告してくれます。さらに各地の講演会や行事には出来るだけ参加し記事のソースを集めて来ます。退職者生活で、知的刺激や交流があり楽しいからやっている面もあります。

②「予定稿」をみんな で見て意見を出す。

新聞発行には「予定稿」という方法があります。発行直前までを「予定稿」ということになりませんが、「編集長」が書いた「ミニコミ新聞予定稿版」を、学習会参加者

など会員のコアのメンバーが見て点検し意見を出しあいます。今はEメール添付という方法がありますのでメンバーにメールで送り、意見を返信してもらいます。そしてそれらを最終的には編集長の責任で、修正したり書き足したりして「ミニコミ確定版」を完成させます。

③「校正係」が大切

脱原発市民運動のミニコミは記事の内容が正確なことが生命です。「校正係」は実は非常に大切です。多人数で校正しても無責任になるので校正係は一人か二人にします。字句の点検だけでなく、事実の真偽や情報の評価が問われるからで編集長以上に大切です。

④紙版のミニコミは 非常に価値がある

あとは インターネット上で確定版として公開し、プリントして紙版も発行します。現在インターネットが普及し、ブログやホームページ、ツイッターなど大流行ですがやはり紙版のミニコミは価値あるものだと思います。（大信田・記）

各地でやろう！ ミニ：パネル展



天恵の海
第87号参照



「天恵の海」ミニコミ新聞はチラシのように多くの人に手渡すだけでなく、新聞ですから、岩手の市民運動の歴史の記録になっています。十年間も発行し続けていますのでそれなりに地域の信頼も得ていると考えます。左の写真は盛岡市の高校教育会館ロビーでの「三陸の海を放射能から守ろう・天恵の海パネル展」の写真です。軽量の発泡スチロール版を使って、拡大した「天恵の海」を展示しています。展示を見るだけでなく、来館者が感想を述べたりして談笑しているのが印象的です。今回の『縮刷版・天恵の海』は、同一の号の表・裏が見開きになっていますので、そのままコピーすれば、「A2版」のパネルに使えます。いろいろと工夫して、各地でミニ・パネル展をやりたいよう。